

第128回 信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医1単位)

講師：帝京大学医学部 整形外科学講座

主任教授 河野 博隆 先生

演題：分かってきたロコモとがんの大事な関係

ーロコモががん患者の運命を変える？ー

日時：2022年2月19(土) 13:20～

会場：ZOOM ミーティングによるオンライン開催

参加費：3,000円(初期研修医、コメディカル；1,000円)

(参加には事前の申し込み、参加費振り込みが必要になります。当日の受け付けはありません。)

抄録掲載料：1,000円(発表者)

単位申請料：1,000円(日整会教育研修単位取得希望の場合、事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。申し込み時に日整会の会員番号が必要となります。)

※ 単位認定には、当日リアルタイムでZOOM ミーティングにご参加いただき、①ZOOM 上でのビデオ ON(顔出し)および②参加ログの確認が必要となります。

当日画面上で受講が確認できない場合は単位認定が出来ませんのでご注意ください。

発表：1例報告1題4分、その他1題5分、討論2分

発表者は当該セッション中、ビデオ ON、発言時以外マイク OFF をお願いします。

その他の先生は発言時にビデオとマイクを ON にしてご発言ください。

抄録：信州医学会雑誌に掲載されます。

当番幹事 信州大学医学部 運動機能学教室

高橋 淳

信州大学整形外科懇談会事務局

TEL 0263-37-2659(直通) FAX 0263-35-8844

共催 信州整形外科懇談会／科研製薬株式会社

参加方法と発表形式について

信州整形外科懇談会 入力フォーム

<https://forms.gle/GhxBkXHkVB7ko7Go6>



参加申し込み Google フォーム入力締め切り: **2022年2月14日(月)**

参加方法

Google フォーム <https://forms.gle/GhxBkXHkVB7ko7Go6> より必要事項を入力後に、金額を確定して事務局よりメールにてお振込みを依頼いたします。指定された金額を下記口座へ**お名前**を御明記の上お振込みください。

八十二銀行 信州大学前支店 普通口座 142543
口座名義: 信州整形外科懇談会事務局

参加費などの振り込みが確認できましたら、ZOOM ミーティングへの参加 URL をメールにてお知らせいたします。

当日、届きました URL よりエントリーして ZOOM ミーティングへのご参加をよろしく願いいたします。

参加費振り込み締め切り: **2022年2月18日(金)12:00(正午)**

※手続きの都合上、早目の申し込み、振り込みにご協力をよろしく願いいたします。

発表者の方へ

① 発表用ファイル

ファイル提出用 Google フォルダ内に提出してください。

1. 動画作成前の PowerPoint ファイル(音声は不要です)
2. 作成した動画ファイル(MP4)

の2点を提出してください。

発表用ファイルの提出締め切り: **2022年2月15日(火)**

※発表用ファイルを共催の科研製薬株式会社で確認するため、締め切り厳守でお願いいたします。

② 信州医学雑誌用の抄録(本文 400 文字)

ファイル提出用 Google フォルダ内の「信州医学雑誌用抄録ひな形(400 字)」(Word ファイル)に上書きして信州医学雑誌用の抄録を作成してください。

抄録には演題名、所属、演者名、400 字以内の本文をご記入お願いいたします。

信州医学雑誌用抄録提出締め切り: **2022年2月19日(土)**

信州医学雑誌用抄録投稿規定

- ①当日までに、Google フォルダ内のファイルに上書きする形でご入力下さい。
- ②形式は例を参照して作成してください。
- ③本文は 400 字以内（25 字×16 行）としてください。
- ④演題名、所属、演者名、本文の誤字脱字を入念にチェックして提出してください。

演題番号	演題名
施設名 演者名 : (演者に○をつける)	
本文	

投稿例

4. 第3楔状骨に発生した骨巨細胞腫の1例
信州大学整形外科
○吉田和薫, 吉村康夫, 磯部研一
新井秀希, 青木 薫, 加藤博之

症例は30歳男性。階段昇降後に右足部痛を自覚。他院で右第3楔状骨に骨透亮像，病的骨折を指摘され当科紹介となった。単純X線で第3楔状骨に骨透亮像を認め，CTで骨皮質の菲薄化，膨隆と一部途絶を認めた。

製品紹介 (13:20~13:30)

関節機能改善剤 アルツディスポ関節注 25mg 科研製薬株式会社

上肢・リウマチ (13:30~14:20)

座長：磯部 文洋

1. ※鎖骨骨折に伴う鎖骨下動脈損傷により腕神経叢麻痺を生じた1例

信州大学 整形外科

○内田美緒、磯部文洋、宮岡俊輔、岩川紘子、北村 陽、林 正徳、高橋 淳

鎖骨骨折は鎖骨下動脈損傷や腕神経叢麻痺を稀に合併する。今回、鎖骨下動脈損傷に伴う血腫により生じた腕神経叢麻痺に対し、ステントグラフト留置後に血腫除去と観血的整復固定を施行した症例を経験したため報告する。

2. 肩人工骨頭置換術後感染例に対し2期的にRSAを施行した2例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○中井亜美、石垣範雄、太田浩史、中村恒一、向山啓二郎、狩野修治、
日野雅仁、政田啓輔、畑 幸彦

肩人工骨頭置換術を施行され、術後感染を発症した2例を経験した。ともに初回手術でインプラント抜去、抗菌薬入りセメントステムを留置、感染鎮静化を確認しリバーズ型人工肩関節置換術を施行し、経過良好である。

3. 広範囲腱板断裂による偽性麻痺に鏡視下上方関節包再建術を施行した2例

岡谷市民病院 整形外科

○鴨居史樹、内山茂晴、田中 学、上甲巖雄、春日和夫

広範囲腱板断裂により、挙上困難となる偽性麻痺を発症することがある。一時修復困難な広範囲腱板断裂の偽性麻痺に対して、大腿筋膜を用いた鏡視下上方関節包再建を施行した2例を経験したので報告する。

4. 手術療法を行った尺骨神経障害

岡谷市民病院 整形外科

○上甲巖雄、鴨居史樹、田中 学、春日和夫、内山茂晴

当院において2017年以降に尺骨神経障害で手術療法を行った症例について調査した。肘部管での障害が73例、Guyon管での障害が3例であった。圧迫の原因としては関節症、ガングリオン、腫瘍などを認めた。

5. 関節リウマチの早期診断、鑑別診断における関節エコー、MRI の有用性

丸の内病院 リウマチ科

○山崎 秀、高梨哲生

2020年8月～2021年9月に当科新患外来を受診した患者を調査し、関節リウマチ(RA)を超早期に診断できた例(preclinical RA)およびRAと鑑別を要する疾患について分析した。早期診断、鑑別には関節エコー、MRIが有用であった。

6. 閉経モデルマウス腱の全遺伝子解析を用いたエストロゲン欠乏の滑膜内腱への影響

信州大学 整形外科¹⁾

大阪大学大学院医学系研究科 遺伝子治療学²⁾

岡谷市民病院 整形外科³⁾

○岩川紘子¹⁾、林 正徳¹⁾、二村圭祐²⁾、内山茂晴³⁾、北村 陽¹⁾、加藤博之¹⁾、高橋 淳¹⁾

狭窄性腱鞘炎は中高年女性に好発することから、エストロゲンの低下が発症に影響すると考えられている。閉経モデルマウス滑膜内腱における全遺伝子解析を行い355の発現変動遺伝子を認めたので報告する。

—————<休憩 10分>—————

脊椎・その他 (14:30～15:10)

座長：鎌仲 貴之

7. *胸椎脱臼骨折後に乳び胸を合併した1例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○政田啓輔、向山啓二郎、太田浩史、石垣範雄、中村恒一、狩野修治、日野雅仁、中井亜美、畑 幸彦

外傷性乳び胸の原因として、鈍的外傷によるものは稀である。今回、我々は第11胸椎脱臼骨折の半年後に呼吸困難を呈して判明した乳び胸の1例を経験したため報告する。

8. *砂時計腫との鑑別を要した腰椎石灰化病変の1例

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○安川紗香、外立裕之、谷川悠介、野村博紀、丸山正昭

77歳女性、主訴は左下肢痛。脊柱管内から椎間孔外にかけてダンベル型に広範囲の石灰化病変を認め、後方からの病変摘出と椎体間固定術を施行した。術後、症状は改善し、病理にて椎間板ヘルニアの石灰化と診断された。

9. 仙骨に浸潤した悪性腫瘍に対する仙骨合併骨盤内腫瘍摘出術の3例

信州大学 整形外科

○石井 良、大場悠己、池上章太、上原将志、鎌仲貴之、畠中輝枝、
宮岡嘉就、黒河内大輔、福澤拓馬、高橋 淳

直腸癌術後再発や局所進展高度な原発悪性腫瘍には、既に仙骨壁浸潤を認める症例もあり再切除を施行しても病巣が遺残し姑息切除となることが多い。仙骨に浸潤した悪性腫瘍に対する仙骨合併骨盤内腫瘍摘出術3例を報告する。

10. 感染性脊椎炎に対しチタンケージを用いた脊柱再建術の経験

伊那中央病院 脊椎センター¹⁾

伊那中央病院 整形外科²⁾

○荻原伸英¹⁾、樋代洋平¹⁾、比佐健二²⁾、原 一生²⁾、山岸祐輔²⁾、小池 毅²⁾

感染性脊椎炎に対する手術方法は、経皮的椎弓根スクリューを用いた一時的固定や病巣搔把が主流であるが、骨欠損の大きい症例には脊柱再建が必要になる。今回、チタンケージを用いた再建術を行ったので報告する。

11. 第1回信州大学整形外科女性医師アンケート結果報告

信州大学 整形外科

○小松幸子、田中厚誌

信州大学整形外科では近年女性医師の数が増加傾向である。今回、女性が直面するライフイベント(結婚、妊娠・出産、育児)に関するアンケート調査を信州大学整形外科所属女性医師を対象に行なったので、報告する。

————— <休憩 10分> —————

下肢 (15:20~16:10)

座長：岩浅 智哉

12. Cementless Stemの前捻は、術前CTのcalcar femoraleを基準として計測した前捻角と相関する

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○谷川悠介、外立裕之、野村博紀、安川紗香、丸山正昭

人工股関節置換術において、Cementless Stemの前捻角に影響する因子を特定するために、術前後のCTを用いて、近位大腿骨の形態計測を行った。その結果、stemの前捻角は、小転子レベルでのcalcar femorale基準の前捻角と最も相関していた。

13. 当科における新たな骨盤側骨欠損分類を用いた人工股関節再置換術の治療経験

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀 丸山正昭 外立裕之 安川紗香 谷川悠介

骨盤側骨欠損を伴う人工股関節再置換術はしばしば治療に難渋する。従来の骨盤側骨欠損分類は術中所見と臼蓋再建方法の指標としては不十分であり、当科で考案した新分類を用いた治療経験を報告する。

14. *膝蓋骨脱臼の既往がある変形性膝関節症に対して OWHTO とともに MPFL 再建術を行った 1 例

長野県立信州医療センター 整形外科

○小山勇介、渡邊憲弥、佐々木純、三井勝博

膝蓋骨脱臼後の亜脱臼位の持続による膝蓋大腿関節面の変性があり、かつ大腿脛骨内側関節面にも変性を伴った変形性膝関節症に対して、OWHTO とともに MPFL 再建術を行い良好な経過が得られた 1 例を報告する。

15. ACL 再建術における multimodal pain control による除痛効果の検討

信州大学 整形外科

○井上慶太、熊木大輝、堀内博志、齋藤直人、天正恵治、下平浩揮、
小山 傑、岩浅智哉、高橋 淳

多角的疼痛管理(multimodal pain control)は、TKA 後の疼痛管理について効果的であることが知られているが、ACL 再建術においてその効果は明らかでない。我々は、ACL 再建術における多角的疼痛管理の有効性を調査したので報告する。

16. *ハムストリング腱を用いた二重東前十字靭帯再建術後 13 年経過した移植腱評価

信州大学 整形外科

○熊木大輝、天正恵治、岩浅智哉、小山 傑、下平浩揮、堀内博志、
齋藤直人、高橋 淳

64 歳女性、二重東前十字靭帯再建術後 13 年経過し、同側の変形性膝関節症に対して人工膝関節全置換術を行った。移植腱の AM 束、PL 束の癒合はなく、また各二重折りした腱間の癒合もなかった。

17. *足関節背屈制限を生じた外傷後腓腹筋拘縮の 1 例

信州上田医療センター 整形外科

○中村駿介、根本和明、高沢 彰、赤羽 努、吉村康夫

21 歳男性。右下腿肉離れの受傷後に足関節の背屈制限を生じた。受傷 4 年後に初診し、画像検査で腓腹筋内側頭近位に石灰化と癭痕様組織を認めた。同部の切除と筋剥離を行ったところ、足関節の背屈制限が改善した。

小児・腫瘍 (16:20~17:10)

座長：岡本 正則

18. 小児の恥骨坐骨結合部骨髄炎の2例

飯田市立病院 整形外科

○百瀬陽弘、畑中大介、畑 宏樹、伊坪敏郎、伊東秀博

小児の骨髄炎は長管骨で発生することが多く骨盤骨は稀である。恥骨坐骨結合部の骨髄炎はさらに頻度が少ない。今回我々は小児の恥骨坐骨結合部骨髄炎の2例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

19. 小児の多関節痛の稀少な鑑別疾患

長野県立こども病院 整形外科

○樋口祥平、酒井典子、松原光宏

小児の多関節痛、多四肢痛はしばしば遭遇するがその診断には苦慮することがある。今回、我々は同症状で稀な疾患(慢性再発性多発性骨髄炎と microgeodic disease)を2例経験したので報告する。

20. *整形外科外来における白血病との遭遇

信州大学 整形外科¹⁾

長野県立こども病院 整形外科²⁾

○柳澤架帆¹⁾、松原光宏²⁾、樋口祥平²⁾、酒井典子²⁾

小児整形外科外来で白血病を経験した。症例は1歳11か月女児。主訴は発熱、跛行、腹痛。診断のポイントは全身症状を伴う関節痛、跛行に遭遇した場合、白血病を疑い画像、血液検査を確認することである。

21. *多数の米粒体を伴う肩峰下滑液包炎を契機に発見された関節リウマチの1例

信州大学 整形外科

○柳澤架帆、鬼頭宗久、磯部文洋、岡本正則、青木 薫、田中厚誌、
小松幸子、高橋 淳

多数の遊離体を有する肩峰下滑液包炎が関節リウマチ(RA)の初発症状であった1例を経験した。RAの診断基準に、当てはまらず診断に苦慮したが、遊離体切除と術後薬物治療の開始により良好な経過をたどっている。

22. がん骨転移に対するリハビリテーションの検討

信州大学 リハビリテーション部¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

信州大学 放射線科³⁾

○松森圭司¹⁾、田中厚誌²⁾、岡本正則²⁾、鬼頭宗久²⁾、小松幸子²⁾、
青木 薫²⁾、大場悠己²⁾、小岩井慶一郎³⁾、塚原嘉典³⁾、堀内博志^{1,2)}、
藤永康成³⁾、高橋 淳²⁾

当院ではがん骨転移に対するリハビリテーション選択アルゴリズムを作成し、骨転移ボードにて治療方針を決定している。今回は脊椎転移に対してリハビリテーション介入した 58 例の治療成績を検討した。

23. 進行性骨・軟部肉腫患者における緩和ケア内科との連携

信州上田医療センター 整形外科¹⁾

信州上田医療センター 緩和ケア内科²⁾

○根本和明¹⁾、高沢 彰¹⁾、吉村康夫¹⁾、中村駿介¹⁾、赤羽 努¹⁾
村上真基²⁾、久保佳子²⁾

当院では 2020 年 9 月に緩和ケア病棟が開設された。これにより進行性骨・軟部肉腫患者の終末期管理を緩和ケア内科と連携して行っている。現状の評価と今後の課題について経験症例を踏まえて考察した。

<総会、休憩 20分>

教育研修講演

(17:30～18:30)

講師：河野博隆先生

帝京大学医学部 整形外科学講座 主任教授

演題：分かってきたロコモとがんの大事な関係

ーロコモががん患者の運命を変える？ー

座長 高橋淳先生

信州大学医学部 運動機能学教室 教授

認定単位：日本整形外科学会専門医資格継続1単位

([5] 骨・軟部腫瘍、[13] リハビリテーション (理学療法, 義肢装具を含む)、
認定運動器リハビリテーション医)

※オンラインでの教育研修講演のため、単位認定には、当日リアルタイムで ZOOM ミーティングにご参加いただき、
①ZOOM 上でのビデオ ON(顔出し)および②事務局での ZOOM への参加ログの確認が必要になります。当日画面上で受
講が確認できない場合は単位認定が出来ませんのでご注意ください。

事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。当日の対応はいたしかねます。